

今日の説教のポイント <使徒言行録 21 章 1～16 節>

①聖霊が矛盾することを起こしている？

パウロのエルサレム行きについて、聖霊が活発に働きかけています(20:22, 23, 21:4, 11)。ここで注目は、聖霊を受けたパウロはエルサレムに行こうとしているのに、同じく聖霊を受けた人々はそれを止めようとしている点です。矛盾しているのではないのでしょうか？

②人が聖霊を受けても、それで正しいことをするとは限らない！

ここを整理すると、次のようになります。(1)聖霊がパウロの将来に起こることを人間に告げる。(2)告げられた人はそのことを考える。(3)出した結論によって次の行動を行う。ここでは聖霊の働きはパウロの将来について告げるということで、それを告げられるという点は皆に共通しています。しかし、それでどう考えるかは人によって違う、パウロは行こうとし、他の人はそれを止めようとした。すなわち、その違いは受けとめた人間の側の違いにあるわけです。

③苦難から免れることなく、苦難に立ち向かうことができるようになることがイエス・キリストと出会う理由、信仰を持つ理由！

パウロは引き留める人々に言います、「泣いたり、私の心を挫いたり、一体これはどういうことですか。主イエスの名のためならば、エルサレムで縛られることばかりか死ぬことさえも、私は覚悟しているのです」(13)。パウロもこれを記したルカも、明らかにイエス様が受けられた苦しみを思い出しています。すなわち、パウロが手足を縛られて異邦人に引き渡されること(11)、最後にはルカたちも「主の御心が行われますように」(14)と祈ったこと、それはまさにイエス・キリストについて起こったことだからです！ この私の救いのために、全て御存じの上で、十字架の苦しみに向かって行って下さったイエス様の意味が分かって来ると、私たちが受ける苦しみに対する考え方も変わって来るのです！

パウロにとって、苦しみを受けることは主イエスの苦しみに連帯させていただけることであり恵みでした。「あなたがたには、キリストを信じることでなく、キリストのために苦しむことも、恵みとして与えられているのです」(フィリピ 1:29)。私たちも、苦難のないことや苦しみから救われることを祈るのではなく、それに立ち向かうことで神様に喜んでもらえることを祈れる信仰を持ちたいものです。